

11月11日は
介護の日

介護

保存版

新聞

企画 | デーリー東北新聞社
制作 | 地域ビジネス局

住み慣れた地域で、いつまでも元気に

「要介護予防」とは、高齢者が要介護状態にならないための対策や、既に要介護状態になった人の状況の改善および悪化の防止を目的とした取り組みです。実際にどのようなことをしているか、八戸市内で、

元気なうちから食生活の改善や適度な運動による体づくりに取り組んでいる機関や、介護予防を支援する人材を育てる教育機関の皆さんからお話を伺いました。

地域活動に生かせる知識



八戸学院大学短期大学部
介護福祉学科 准教授
小川 あゆみさん

介護とは、高齢者の介助を祖父母と孫、親子を対象にすることだけではありません。声を掛けたり、自立のために見守ったり、時には一踏に歩んだりすることも当てはまります。介護福祉職は、人の命を守り、日々の暮らしを守り、人生を守る、とても尊い仕事。相手のために多くの情報を得て、総合的に判断し行動に移す知識は、専門的な学習を通してこそ身に付けられます。

介護福祉学には、医学、薬学、生活科学のほか、コミュニケーションやレクリエーションなど、さまざまな学問が総合的に取り入れられています。高齢期に入ると、誰しも心身の衰えが発生するものです。その進行を予防するため、またこのように

にして心身の機能を維持、向上させればいいのか、本学科の学生たちは日々学んでいます。

また、身に付けた知識を、介護予防のための地域活動に応用しています。

今秋から八戸市のY.S.アリーナで、高齢者、